



【韓国】 総合指数は週間で1.3%安と4週ぶりに反落、今週は地政学リスクが重しか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.3%安と4週ぶりに反落。31日が大晦日、1日が元日で休場となり、取引は3営業日で、週を通じてさえない値動きが続いた。30日は連休を前に換金売りが優勢。前週末の27日に総合指数が約8カ月ぶりの高値を更新しただけに外国人投資家の利益確定売りが膨らみ、節目の2200ポイントを割り込んだ。特に半導体株が売られ、サムスン電子が1.2%安、SKハイニクスが2.0%安とそろって反落した。指数は連休明けの2日に前営業日比1.0%安と続落。サムスン電子が続落するなど大型株の利益確定売りが続いた。3日は小幅に3営業日ぶりに反発したが、中東情勢の緊迫化を背景に伸び悩んでいる。今週は核実験の再開を示唆した北朝鮮を巡る問題や米国・イラン間の緊張など地政学リスクが重しか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%高と5週続伸、今週も原油高が支援となるか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.0%高と5週続伸。原油高を好感したエネルギー株の上昇が指数を押し上げた。米国がイラン革命防衛隊のソレイマニ司令官を殺害し、イランも報復をちらつかせたことで中東情勢が緊迫化。ブレント原油先物は3日の取引で前日比2.35ドル高(3.55%高)の1バレル68.60ドルと急伸した。先週は12月30日と1月3日の2日間だけの取引だったが、RTS 指数は3日の取引で前営業日比1.0%高の1564.18ドルと2013年2月下旬以来、6年10カ月ぶりの高値を更新して終了した。個別銘柄では、エネルギーのルクオイル(2.3%高)、スルトネフガス(1.0%高)のほか、金融のズベルバンク(1.2%高)などの上昇が指数を押し上げた。今週は中東情勢の緊迫化を背景とする原油高が引き続き支援となるか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.2%高と続伸、今週は中東情勢緊迫化でリスク回避

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%高と続伸。米中通商協議の進展を好感した世界的なリスクオンの流れが相場の支援となったものの、中東情勢の緊迫化が上値を抑えた。米中が通商合意文書に署名する見通しとなったことで指数は3日に一時970.88ポイントと12月13日以来の水準を回復したが、米国がイラン革命防衛隊司令官を殺害し、中東情勢が緊迫化したことでリスク回避が強まった。結局、3日は前日比0.2%安の965.14ポイントで引け、週間の上げ幅を縮めた。個別銘柄では、ベトナム産業貿易商業銀行(ベトインバンク)やベトジェット・アビエーションが3%超上昇した一方、サイゴンビール・アルコール飲料やペトロベトナム・ガスが2%超の下落となった。今週は中東情勢の緊迫化を受けてリスク回避の流れが強まるか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、6300 ポイントを挟んだもみ合い

ジャカルタ総合指数は3日間の取引で0.1%安と5週ぶりに反落。19年12月月間では4.8%高。先週は週末の反発が下落幅を縮めた。週初の30日は、前週末まで4営業日続伸した反動で売り優勢となり、終値で節目の6300ポイントをわずかに下回ると、20年の初取引となった2日は首都圏を襲った大規模な洪水と土砂崩れの影響で薄らいとなる中、続落した。一方、3日は米軍によるイラン革命防衛隊の司令官殺害を受け、地政学リスクが高まったものの、前日のNYダウが過去最高値を更新した流れで買い戻され、終値で6300ポイントを回復している。今週は10日に19年11月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、19年12月の製造業PMIが50ポイント回復

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で0.4%高と続伸。19年12月月間では0.9%高。先週は週初の30日に金融株が売られ、6営業日ぶりに反落。半日立ち合いとなった31日は前日からほぼ横ばいだったが、祝日を挟んだ2日は19年10-12月期のGDP速報値が前年同期比0.8%増と市場予想と一致し、緩やかな景気回復への期待感が広がった上、中国人民銀行（中央銀行）による預金準備率の引き下げも好感されて、終値で約6週間ぶりの高値を更新した。今週は10日に11月の小売売上高が発表される予定。3日の取引終了後に発表された12月の製造業PMIが8カ月ぶりに50ポイントを回復したことは好材料。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.1%高、原油価格の上昇でエネルギー株に買い

SET 指数は3日間の取引で1.1%高と続伸。19年12月月間では0.7%安。先週は20年の初取引での上昇が奏功した。週初の30日は小幅に反発。連休を挟んだ2日は原油価格が上昇した効果でタイ石油公社（PTT）が買われ、指数は前営業日比1.0%高と続伸した。3日には場中に一時、1600ポイントに到達したが、米証券大手のジェフリーズが今年のタイ国内の空港利用者数の伸びが鈍化するとの見方を示すと、タイ空港公社が指数下落を主導し、終値では小幅に反落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、中東情勢の緊迫化を背景にした原油の値動きが指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.05%高、今週は10日に19年11月の鉱工業生産発表

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.05%高と横ばい。19年12月月間では1.7%高。先週は米ドル安に高に伴う資金流入が指数を支えた。週初の30日はパーム油価格が上昇した効果でプランテーション株が買われ、指数は続伸。一方、31日は前日のNYダウが下落した流れを引き継ぎ、終値で前日比1.7%安と1600ポイントを割り込んだ。一方、祝日を挟んだ2日は米中貿易交渉の「第1段階の合意」の署名式が今月15日に実施される見通しとなったことが好感されて、この水準を回復。3日は原油価格が上昇した効果で続伸して取引を終えた。今週は10日に19年11月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。